

【資料 10】 令和 4 年度第 3 回運営協議会における意見等

○要介護認定の臨時的な取扱いの見直しについて

【概要】

要介護認定の臨時的な取扱いは国通知により令和 4 年度で終了し、令和 5 年 4 月 1 日からは原則として従前の取り扱いとする。

ただし、市町村の判断により臨時的な取扱いを 1 年間延長しても差し支えないとの国通知に基づき、市では①入院・入所中で面会禁止措置により認定困難な方、②感染拡大防止の観点から面会が困難で認定調査が困難な方は臨時的な取扱いとする。

【意見等】

新型コロナウイルス感染症が 5 類とされた場合、病院・介護施設では法的な措置ができない。市としての基準はあるか。また、クラスターの判断基準はあるか。

【事務局回答】

病院・施設における面会については、面会の重要性を考慮しつつ面会者からの感染を防ぐため、病院等において様々な対策が実施されていた。

一般社団法人日本環境感染学会による「医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド」においては、従来「感染者が増加している地域の医療機関では、(中略)特別な事情がある場合は除いて、原則的に面会は制限することが望ましい」と記載されていたが、現在は「状況に応じて面会時の条件設定が勧められます」と改められたところ。

市としては、これまでも面会制限に係る独自の基準は設けておらず、物理的な接触を避けながら面会を行うことができるオンライン面会や家族面会を可能とするための面会室の整備・改修を行う高齢者施設に対して補助してきたところである。今後も、病院等における面会の可否は、それぞれの病院・施設において判断いただくこととなる。

また、クラスターについて、従来は感染の流行を早期に終息させることを目的に、5 人程度の発生を目安として、施設に対し積極的疫学調査を実施していたが、5 類移行後に高齢者施設等で感染者が発生した場合の報告や療養等については、県と協議の上、原則として「季節性インフルエンザ」と同様の対応となる旨を 5 月 2 日付で各施設に通知したところであり、従来の「クラスター」という概念はなくなる。

・主な内容

従 前	5 月 8 日以降
1 報告基準 入所系施設 <u>1 名以上</u> 通所系施設 <u>3 名以上</u>	1 報告基準 入所系施設 <u>10 名以上又は全利用者の半数以上</u> <u>死亡者又は重篤患者が 1 週間に 2 名以上</u> 通所系施設 <u>同上</u>
2 感染者の療養 <u>隔離を目的とした入院措置・勧告、外出自粛要請等の実施</u> <u>保健所による疫学調査、健康観察及び必要時入院調整の実施</u>	2 感染者の療養 <u>通常どおり、協力医療機関等との連携し、医師の判断による対応</u>

○介護人材の確保について

【意見等】

介護人材確保に係る検討状況について、中間報告でも構わないので協議会に報告願いたい。

【事務局回答】

1. 介護人材確保に向けた取り組みについては、次のとおり実施している。

(1)福祉介護人材定着支援事業

介護人材不足の課題のひとつとして、入職前の介護の仕事に対するイメージと入職後の実態の差が大きく、そのギャップにモチベーションが下がり離職に繋がる傾向がある。

このことから、市では福祉介護人材定着支援事業として、職員のスキルアップを図るだけでなく、やりがいのある職場づくりや職場環境の改善を促し、介護職員の育成や定着率向上を目指すため、介護職員に対するセミナーを毎年度実施しており、令和5年度も実施予定。

・令和4年度実績

開催日時 令和5年2月4日 10時～17時

開催場所 いわき産業創造館（ラトブ6階）

参加者数 新人（入職3年未満）：14名

中堅（入職3年以上及びマネジメント層）：36名

研修内容 新人・中堅に分かれ、介護の仕事をする上での悩みや不安を出し合い、グループごとに共有、大牟田市で先進的に取り組む事業所の職員の事例を聞きながら、課題を整理し、次のステップに向けたアクションを考えるワークショップを開催

(2)出前講座

将来の介護人材の確保に向けた事業の一環として、小中学生を対象とした出前講座「人生100年時代「介護」の仕事のをぞいてみよう」を開設している。

当該講座は、介護職として従事している職員が講師となり、高齢者疑似体験や車いすの乗車体験等を通じ、「介護」の仕事の社会的な意義や価値を説明するもので、毎年度実施しており、令和5年度も実施予定。

・令和4年度実績

①開催日時 令和4年7月12日 13時35分～15時25分

開催場所 三和中学校

参加者数 三和中学校2年：13名

内 容 少子高齢化社会の抱える問題と介護の仕事について（座学）
体験学習（2名1組となり、介助する側、される側を交互に体験する）

②開催日時 令和4年9月1日 10時30分～11時30分

開催場所 勿来第二中学校

参加者数 勿来第二中学校3年：21名

内 容 少子高齢化社会の抱える問題と介護の仕事について（座学）
体験学習（2名1組となり、介助する側、される側を交互に体験する）

(3)いのちの授業

医師会や医療介護の多職種が連携し、小中学生へ医療や介護、健康などについての授業を展開していくことで、子どもたちに対し医療介護への理解を促す取り組みとして、「いのちの授業」を実施している。

当該事業は、医師をはじめ専門職が映像を活用した授業を行うもので、令和4年度から実施しており、令和5年度も実施予定。

・令和4年度実績（介護に関連するもののみ記載）

- ①開催日 令和4年11月16日
開催場所 大浦小学校
参加者数 大浦小学校5年：50名
内 容 医療と介護の様々な仕事についての授業
- ②開催日 令和4年1月18日
開催場所 好間中学校
参加者数 好間中学校1年：77名
内 容 地域包括ケアと医療介護についての授業

(4)雇用管理の状況調査

各事業所の職員数等の雇用状況を把握し、今後の介護人材確保の取り組みに繋げるため、令和元年度から雇用管理の状況調査を実施している。

回答事業所における職員の増加率は年々上昇しているが、4割以上の事業所が職員数が不足していると回答している。

・これまでの調査結果

	回答事業所数	採用率	離職率	増加率
令和元年	285	17.6%	14.2%	3.3%
令和2年	374	14.8%	10.5%	4.3%
令和3年	374	17.8%	12.4%	5.4%

2. これらのほか、不足している介護人材の確保に向け、今後は次の取り組みを進める予定。

(1)勿来高等学校普通科福祉コースとの連携

勿来高校普通科では今年度から福祉コースが導入されており、福祉分野への進路希望や関心を持つ生徒を対象として、福祉に関する授業を通じて、施設の見学・体験・外部講師招聘など地域と連携を図り、人材の育成や福祉系への進学を推進する取組が開始されたところ。

市は今後、介護人材の育成・確保に向け、勿来高校との連携・協力を進めていく予定である。

(2)第10次高齢者保健福祉計画

第10次高齢者保健福祉計画に係る介護支援専門員へのアンケート調査や介護保険運営協議会での意見を精査し、次期高齢者保健福祉計画に反映させるとともに、具体の施策を創設するよう努める。